

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区船橋 6 - 2 5 - 1
園名	世田谷区立 希望丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園の自然・生き物に触れ興味関心を深めながら楽しんでいく。

<テーマの設定理由>

これまで自然環境の充実に取り組んできたことを通して、子ども達がより自然を身近に感じ、植物や虫の生長に興味を持って、世話や観察をしようと一歩踏み出す姿につながっている。今後さらに興味関心を深め、自ら探究したいと思える環境作りを進めていく。

2. 活動スケジュール

- ・アトリエチームと協力し「自然の中で制作活動を楽しむ日」を実施
- ・自然に関わる絵本を購入し、絵本を通して自然とかわる。
- ・春には花を購入し、園庭の環境整備をする。
- ・暖かくなったら、園庭ワゴンを準備開始。テーブルも購入し座ってじっくり観察などを楽しめるように環境づくりをする。
- ・園内でも緑を感じられるよう観葉植物を置き、緑を身近に感じる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・園内プロジェクトのアトリエチームと協力して、自然に触れながらの制作活動を行った。どの年齢の子どもたちも夢中で楽しむ姿があり、いつでも自然を取り入れた制作活動ができるようにということで、アトリエワゴンの準備を始めた。
- ・園庭でのっばらが冬枯れしている期間でも、自然への関心を持てるように自然に関する本を沢山購入して、クラスでいつでも触れられる環境を作った。
- ・春が近づいたところには沢山の花を購入して、絵本などで触れた昆虫や草花に触れることができるようにのっばらの環境整備を行った。

4. 探究活動の実践

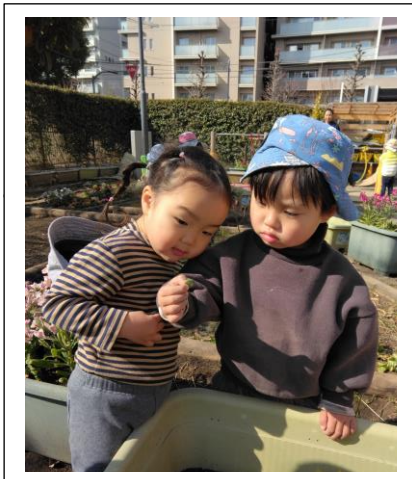
<活動の内容>

【むし・あおむし探し】

園庭のプランターの数を増やし野草、花、キャベツの苗などを植え、植物や虫が増える環境を整えてきた。プランターのキャベツの葉をみてみると大量の青虫がいることに気が付いた乳児クラスの子どもたち。興味津々で見えていたが“慣れないもの”から手を伸ばす姿は見られなかった。しかし、他学年の児が触っている姿を見るとそっと手を伸ばしつまんでみた。隣で覗き込んでいた児も一緒に遊んでいた友達が触れたことに気が付いて、手のひらに載せてもらっていた。手に載せるとパッと表情が明るくなり嬉しそうに触り、その後もあおむしを探す姿があった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

他学年の園児が虫に触っていることに興味を示し、虫に触っている側に来た、友だちが手のひらにのせた際に「なにになに？」と触っているあおむしに興味深そうにのぞき込んでいた。その姿からは虫を触ることへの躊躇と好奇心が伝わってきた。保育士は二人のやりとりを見守っていると、友だちが順番かのように何気なく「はい」と手に渡すと気にする間もなく手のひらで受け取っていた。



<振り返りによって得た先生の気づき>

自然環境が豊かになってきて、虫の種類も増え生き物に触れる機会が多くなってきた。乳児クラスでは、まだ虫への不安と怖さもあった。気にはなる姿や好奇心も見られたため、心の動きを感じながら見守っていた。周りの友達の影響を受け刺激となって、触ってみたいという気持ちの後押しになりつまんでみるという姿、関りの輪が広がっていく場面につながった。怖いけど気になるから触ってみたいという気持ちが、友達とのかかわりの中で、試してみようとする姿へ一歩踏み出す姿へと変わっていった。友達と一緒に過ごすことから新たな発見へとつながることのきっかけになることに気が付いた。

自然に触れる一つ一つの場面で子どもたちの心の動き、関心や好奇心の変化などドキドキわくわくする、感じる貴重な経験へとつながっている。引き続き自然環境を守り、子どもたちの貴重な機会や場面を大切に見守って援助していきたい。